

傷病者とのコミュニケーション

〔第8回〕「トリアージ事例」

講師 工藤 健太

(池北三町行政事務組合
足寄消防署)

1. はじめに

池北三町行政事務組合^{あしよる}足寄消防署の工藤健太と申します。今回は私がシリーズ第8回「トリアージ事例」を担当いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

トリアージと聞きますと、殺伐とした現場、多数傷病者、集団災害という言葉が連想され、良いイメージができない方が大勢いると思いますが、私もその中の一人です。

今回は、実際にトリアージを必要とした多数傷病者事例を織り込みながら、傷病者とのコミュニケーションについて、経験したことを少しでも分かりやすくお伝えできればと思っております。

2. トリアージ

事例に入る前に、救急関係の教科書を開くとすぐに出てくる内容ではありますが、トリアージについて述べたいと思います。

(1) トリアージとは

- 「選り分けること」→フランス語のtriageを語源としています。
- 目の前の傷病者数や状況に対して、自分たちの持つ「力」が劣っているときに行います。「力」とは、マンパワー、資機材、搬送手段等を総合したものであり、地震や津波、自動車多重衝突事故といった大災害だけではなく、交通事故で傷病者が2名であっても「力」を超えるときには、トリアージの必要があります。

(2) トリアージの目的

- 治療不要な傷病者を除くこと。
- 救命不可能な傷病者を除くこと。
- 救命可能な傷病者に順位をつけること。

(3) トリアージの原則

- 一人で判断する→他の人は、タグ記載、処置（気道

確保、止血)

○繰り返す→

- 1次：1傷病者30秒以内に重症度をふるい分ける。
除染：毒物付着及び痒み等で選り分ける。
- 2次：現場救護所での処置の順番と内容を決める。
搬送：搬送の順位と搬送先病院を決める。
病院前：病院での治療の順番と内容を決める。

○処置しない→上記の処置（気道確保、止血）以外はしない

(4) トリアージ区分 (写真1)

- 第1順位 重症群 (赤タグ)
直ちに処置を行えば救命可能な者
- 第2順位 中等症群 (黄タグ)
多少治療が遅れても生命に危険がない者
- 第3順位 軽症群 (緑タグ)
ほとんど専門医の治療の必要がない者
- 第4順位 死亡群 (黒タグ)
死亡又は直ちに処置しても救命不可能な者

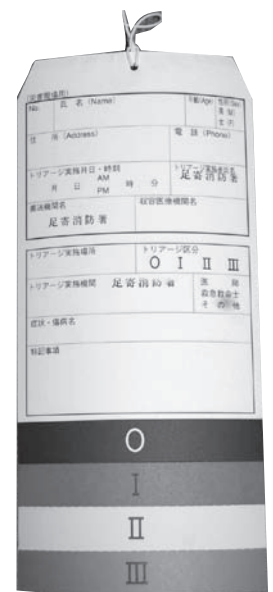


写真1 トリアージタグ

3. 事例

- 発生日時 平成〇〇年〇〇月 〇〇時〇〇分頃
- 発生場所 北海道足寄郡足寄町観光地 道道〇〇線
- 通報内容 「〇〇入口付近の道路でバイクとバスの衝突事故です。」
- 事故概要 国道〇〇号線側から道道〇〇線を観光地方向にバイクで走行中、スタンドを立てたまま走行していたため、スタンドが路面に接触し転倒。対向車線にはみ出し、対向車線走行中の大型観光バス（以下バス）がバイ

クを避けようとハンドルを切ったが、わずかに接触し、路外に逸脱した事故である(写真2、3)。

○現着時 救急隊到着時、バス(乗員乗客48名)は、進行方向の左の路肩から約5m下の草地に転覆。バイクは、バスより国道側約5mの対向車線上に倒れた状態でした。

傷病者49名のトリアージを実施し、出動車両8台により、4医療機関に搬送した事例です。傷病程度別の分類は、赤タグ5名、黄タグ6名、緑タグ38名でした。



写真2 バイクと大型観光バスの交通事故



写真3 事故現場での他機関との連携

4. 本事例でのやりとり

実際の現場でのやりとりを抜粋します。

救急隊 「救急隊の〇〇と言います。今、怪我をされている方が大勢いる状況です。これから、一人一人診ていき、病院に行く順番を決めますのでご協力よろしくお願いします。」

※救急隊1次トリアージ中。

傷病者 「早くうちの息子診てくれよ。」(写真4)

救急隊 「一人一人順番に診ますので、もう少し待っていてください。」

傷病者 「待ってる時間長すぎて、具合が悪くなってきた。」

救急隊 「申し訳ありません。もう少し待っていてください。」



写真4 誰もが自分や自分の身内を一番にみて欲しい心理状態です

本事例のような活動の際は、誰もが平常心ではありません。それぞれの立場に立ち、現場での【心理状態】を抜粋してみました。あくまでも、私の個人的な考えです。みなさんも考えてみてください。

《傷病者》

「とにかく早く診て欲しい。」

「診るのが遅れて、何かあったらどうなるのかな。」

「早く病院に行きたい。」

「うちの娘が一番苦しんでいる。」

「なんで自分が他の人より軽傷なのか。」等々

→上記に抜粋したものは、事故にあったという不安、怪我の状況、身内の心配等が重なり、不安感や苛立ちから生じる心理状態だと思います。救急隊の説明を理解していないわけではなく、分かろうとはしていても、それ以上に不安が勝ってしまっている心理状態です。

《救急隊》

現場到着まで「何人いるのかな。」「タグ足りるかな。」(写真5)

現場到着「想像以上だな!!」「後続隊早くきてよ!!」

通常の救急活動でも、現場到着までに、色々なことを考えて資機材の準備と心の準備をするのは当たり前ですが、「トリアージ」となると考えることが多すぎて、出



写真5 現場到着までに資機材と心の準備

なくても良いアドレナリンが出てしまいます。救急隊も不安と緊張がピークに達します。

※救急隊状況把握中

関係者A 「何やってんだよ。早く来いよ！」(写真6)

救急隊 「現在、状況を確認中ですので少し待っていてください。」



写真6 関係者は、冷静さを失っているので救急隊は冷静な対応を心掛けます

※上記内容説明中

関係者A 「状況なら見たら分かるだろ!!」

救急隊 「申し訳ありません。少し待っていてください。」

心の声 「こっちだって急いでいるんだよ!!」(苛立ち)

心の声 「早くトリアージしないと!!」(焦り)

※トリアージ中

関係者B 「早くこっちこいよ!」

救急隊 「順番に診ていますので待っていてください。」

関係者B 「いいからこっち来い!」と腕を引っ張られる(写真7)。

心の声 「順番だから待っていてって言ったのに!!」(苛立ち)

心の声 「腕を振りほどいてトリアージを続けなきゃいけないんだけど……」(迷い)

というのが救急隊の本音ではないでしょうか。基本は分かっていますが、どうしても現場の雰囲気や傷病者の心理



写真7 現場の雰囲気や関係者に振り回されてしまいます

に流されてしまい、活動がスムーズにいかずに苛立ってしまいます。通常の救急活動では、その多くは傷病者が一人であるため、比較的多くの情報を得ることができますが、多数傷病者の場合は、時間をかけて情報を得ることは困難です。

普段の生活の中でも、初対面の方と信頼関係を築くには時間がかかります。特に、このような場面では、短時間に信頼関係を築くことは非常に困難です。しかしながら、たとえ即席であっても「信じてもらうこと」がスムーズな活動を行う上で、とても重要な要素であると思います。

5. 傷病程度別の特徴

傷病程度	傷病者	救急隊
赤タグ	<ul style="list-style-type: none"> ・会話ができない ・動けない ・自分の状況を伝えられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番先に接触したい ・一番に病院へ搬送したい
黄タグ	<ul style="list-style-type: none"> ・会話はできる ・動けないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤に移行する可能性があるので注意が必要
緑タグ	<ul style="list-style-type: none"> ・会話はできる ・動ける&走れる ・一番先に病院へ行きたがる 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急活動の支障になる ・協力してほしい

上記の表で分かるように、搬送を優先する赤タグ傷病者に接触するまでに、緑タグ傷病者の「壁」があります。緑タグ傷病者は会話ができて動けますので、救急隊にどんどんアピールしてきます。擦過傷や打撲痕を見せて、「早く何とかしてくれよ!」(写真8)と罵声を浴びせる傷病者、勝手に救急車に乗り込もうとする傷病者、色々な形で救急隊を悩ませてくれます。ただ、この緑タグ傷病者を味方につけることができれば、活動がスムーズに行くのではないかと思います。平常心でない傷病者と関係者を味方にするなんて「簡単に言うな!」というのが皆さんの本音ではないでしょうか。僕もそう思います、活動をスムーズに



写真8 緑タグ傷病者は自由に動いて救急隊の活動にとっての「壁」になります